

# シニア探検隊

## 静かに送られたい 関心増す「家族葬」

自分の葬儀のスタイルについて、元気なうちから考えるシニアが増えている。身内だけが集まる式でゆつたりと送りたい。そんな「家族葬」を希望している7人の隊員が、葬儀会社を訪ねて勉強した。

隊員は、京都府精華町の村 野で介護施設などを見学して山博一さん(65)と五十嵐勇さん(66)。地元の老人会の集まりで、考えているという。



訪れたのは、1970年代創業の葬儀会社「芋忠本店」(大阪市住吉区)。無料で葬式のセミナーや相談会を開いている。「最近では家族葬が増えている。営む葬儀の半分を占めるようになりました」。社長の藤井健次郎さん(48)の説明に、2人は驚いた様子だ。

### 費用も安く

家族葬の明確な定義はないが、身内や親族に限られた人が、身内や親族だけの葬儀に呼ばれた人が高齢で、葬儀に呼ばない人が少ないケースや、喪主となる子どもが遠方で暮らし

●葬儀を前に藤井さん(左)から家族葬について説明を受ける村山さん(右)と五十嵐さん。控室は町家風の通りで、温かい雰囲気(大阪市住吉区)。



芋忠本店の家族葬は、亡くなった人が高齢で、葬儀に呼ばない人が少ないケースや、喪主となる子どもが遠方で暮らし、費用も安く、2人は驚いた様子だ。

ており、故人が住む地域とのかかわりが薄い場合が目立つ。また、費用を気にする人も多くなってきたという。同社の場合、お布施など寺院関係を除くと、親族20人の家族葬で費用は約60万円。参列者への返礼品を用意する必要がなく、親族20人、参列者80人の一般的な葬儀に比べ、4割程度少なくて済む。

### 手作り感演出

「式を営むことに振り回されず、身内で静かに故人をしのぶことができるのが家族葬の特長」と藤井さん。故人の好きな音楽を流すなど、手作りの感ある葬儀を演出することもできる。家族葬の式場を使う、事務所横の2階建て多目的ホールに案内してくれた。

1階は25人ほどが座ればいっばいになる広さ。カーネーションやトルコキキョウで彩られた祭壇との距離が近い。2階は控室。「自宅で葬儀をしている雰囲気」と畳敷きのスペースを設けて、台所や

守屋由子(文・古岡三枝子、写真・守屋由子)

シニア探検隊大募集  
あなたもシニア探検隊に参加しませんか。日々の暮らしの中で、「こんなことを調べてみたい」と思っている対象を記者と一緒に取材するシニア世代を募集しています。希望者は、はがきに住

### 元気なうちに話し合いを

自分の葬儀の規模について、第一生命経済研究所が2006年に調査したところ、65〜74歳では「家族だけで」「身内と親しい友人だけで」で過半数を占めた。同研究所の主任研究員、小谷みどりさんは「これまでの葬儀の形は遺族の思いが強く反映されていたが、生前に自分で決める

●自分の葬式の規模について(第一生命経済研究所の調査から)



人が増えている。その結果、葬儀や喪に与えられる必要がなくなり、葬儀は小規模化していると分析する。希望する葬儀の形が決まったら、どうしたらよいか。葬儀業界大手の公益社(大阪市中央区)広報担当

さらに、「葬儀には社会的な役割がある」という意味がある。故人の遺志で家族葬にした場合でも、後日にお別れの会を設けるなど、故人とつながりがあった人たちの「お別れをしたい」という気持ちへの心配りを、忘れな